

令和3年度建築科 学部入学試験 出題意図

東京藝術大学美術学部建築科の入学試験は、文章と図で示された立体を印象ではなく正確に捉え描画を行う[空間構成]と、与えられた素材から空間をドローイングや文章で表現する[総合表現]の2課題で構成されます。

[空間構成](1日目)

この試験は、与えられた文章で定義された立体を、条件に従って構成・表現する力を問うものです。

本年度は、[問題1]で定義した3つの立体(立方体、直方体2つ)に球体を追加した4つの立体を、指定された条件に従って適切に配置し描写を行うものでした。

本年度の試験では、「重力を考慮し、バランスを保って静止している状態」を構成条件のひとつとしました。ほとんどの作品は、条件を満たしていましたが、重力を考慮することで、立体の構成や描写の構図が静的になる傾向がみられました。その中で、重力とバランスを上手く表現し、作品の魅力とできているものをより高く評価しました。特にツヤの有無など4つの素材と質感の描き分けが効果的な作品は、残念ながらあまり多くありませんでした。

なお、この試験では立体や影の形状を「正確」に捉えることがすべての前提になります。この点は十分に留意してください。

[総合表現](2日目)

この試験は、与えられた素材(スポンジ、和紙、金属板)を触るなどして物性を観察し、それらを組み合わせさせた空間をイメージするもので、文章、描画に加えて、立体での表現を求めました。

本年度は、以下の点を特に評価しました。

- ① 素材に対する観察力・分析力
- ② 空間をイメージする構想力・創造力
- ③ 以上を的確に説明する表現力

①に関しては、3つすべての素材の性格を拾い上げていない解答が見受けられました。また、②③に関しては、文章や立体で表現された空間のイメージと、描画で表現された空間が全く異なるものであったり、関係が不明瞭なものがあったことも残念です。総合表現の試験では、与えられた素材に対する観察のみならず、それらを異なる表現方法でどのように、あるいは何を表現するか、互いに補完し合う一貫性のある表現になっているか、という点が重要であることをよく理解して試験に臨んで下さい。

以上